

今こそ、新聞を毎日30分以上読み、
自分で考える力、批判的思考(クリティカル・シンキング)能力を身に着けよう!!

開倫塾
塾長 林 明夫

Q : なぜ、「今こそ、新聞を毎日30分以上読もう」なのですか。

A : (1)2020年2月からの新型コロナウイルスの世界的拡大が2年以上続き、これに加え、2022年2月24日からのロシアによるウクライナ侵攻が進んでいます。

(2)歴史の教科書に載るような2つの出来事は、新型コロナウイルスに感染した人々、ロシアによる侵攻を受けたウクライナの人々だけでなく、世界中の人々の日々の生活に大きな影響を与えています。

(3)新聞で毎日のように報道されている出来事が、自分たちを含め世界中の人々の日々の生活に大きな影響を与えています。

(4)そうであるならば、新聞を毎日30分以上読み、世の中でどのようなことが起きているのかを正確に知り、「自分で考える力」や「批判的思考(クリティカル・シンキング)能力」を身に着け、何をどうしたらよいかを自分で決定。責任ある行動をとるべきと考えます。



Q : 現在は、コロナ禍はどのような状況だと考えますか。

A : (1)2年以上続くコロナ禍で、世界中の人々の生活は随分変わりました。中国ではゼロコロナ政策を今でも続けているため、都市のロックダウン(都市封鎖)が行われ、人々が学校に行き勉強することができず、職場に行き働くことができず、すべてズームで行われています。コロナの感染が広がって一番困るのは、ものをつくる製造業です。

(2)部品が生産されなければ完成品もできませんので、自動車などの生産もストップしています。

(3)お客様が店に来なければ成り立たないサービス産業も、仕事を続けていくことすらできません。

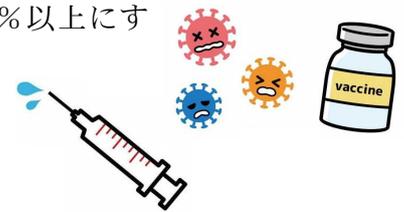
(4)そこで、ゼロコロナ政策を取り、ロックダウンを続けている中国は別として、ほとんどの国では「コロナとともに日々の生活、日々の仕事を続ける」「ウイズ・コロナ」で生き抜くことを決めています。

Q : 「ウイズ・コロナ」で大切なことは何ですか。

A : (1)新型コロナの感染を抑え、医療の逼迫(ひっぱく)を回避しながら、できるだけ日々の生活を取り戻していくためには、新型コロナワクチンの接種を進めることが大変重要です。

(2)第3回接種も、第1回、第2回と同様、できるだけ早く80%以上にすることが求められています。

(3)まだ接種していない方は、新聞をよく読み、また、医師と相談の上、是非、接種をご検討ください。



Q：ロシアによるウクライナ侵攻で、これからの世界はどのように変わると考えますか。

A：(1)ロシアによるウクライナ侵攻は「経済制裁」という新しい戦争の形と、ロシアが最も恐れていた NATO の東方拡大、つまり NATO の結束とフィンランド・スウェーデンの2国の NATO 加盟を現実にはさせています。

(2)また、武力による台湾の統一を完全に排除しない中国への危機感を強めた米国は、台湾の自衛力強化を支持する立場に、考え方を改めました。

(3)「民主主義陣営」と「強権国家」の対立が、北欧と台湾海峡をめぐって明らかになってきました。「新しい冷戦(新冷戦)」が始まったと言えます。

Q：このような厳しい現実を前にして、我々はどうしたらよいのでしょうか。

A：(1)「ウイズ・コロナ」としてどのような毎日を送ればよいか、「コロナのピンチをどうチャンスに変えたらよいか」を、是非、お考えください。帰宅時間がコロナ前よりも早いのであれば、家庭学習や開倫塾での自学自習の時間を大幅に増やし、学力向上に当てることも可能です。「ウイズ・コロナ」は、学力向上の千載一遇のチャンスです。辞書・新聞・読書・図書館に親しむ絶好のチャンスです。



(2)「新冷戦」に入りつつある現在、新聞を毎日読み、これからの世界がどうなるかを自分の力でしっかりお考えください。

(3)ロシアによるウクライナ侵攻は、誰が見ても許されることではありません。即時に停戦して軍隊を引き上げ、ウクライナの復興を果たすべきです。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というユネスコ憲章の前文をいつも思い出し、お互いを認め合うことも大切です。



Q：最後に一言どうぞ。

A：ロシア文学の古典ともいえる、ツルゲーネフ著「初恋」、ドストエフスキー著「罪と罰」「カラマーゾフの兄弟」、トルストイ著「戦争と平和」「アンナ・カレーニナ」「人はなんで生きるか」「イワンのばか」「光のあるうちに光の中を歩め」「人生論」、チャーホフ著「犬を連れて来た奥さん」「桜の園」などをゆっくり読むのも、この時期の過ごし方かもしれません。是非、挑戦してください。

— 2022年5月12日記 —